

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続ける、という目標達成のために 新設された「地域包括ケア推進部」が始動しました

平成27年4月、輝生会本部に「地域包括ケア推進部」が新たに設置されました。現在、堀見(医師)、伊藤(理学療法士)、松下(看護師)、小石(看護師)の4人で、活動を開始したところです。

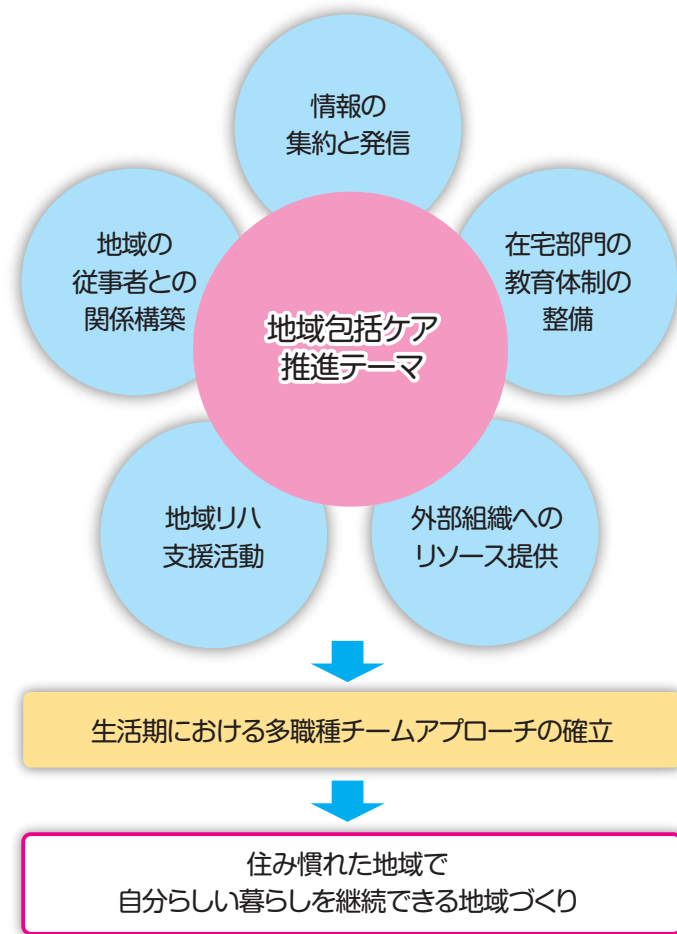


医師 堀見 洋継
理学療法士 伊藤 隆夫
看護師 松下 明美
看護師 小石 一江

今年2月、輝生会本部が、初台から当法人の中で最も古い生活期の拠点、在宅総合ケアセンター元浅草の傍に移されたのも、輝生会として地域包括ケアに本腰を入れるということの表れです。地域包括ケア推進部の目的は、回復期リハビリテーション病院において、我々輝生会が洗練させてきた「多職種によるチームアプローチ」を、生活期において推し進めることです。

具体的には、輝生会の持つ生活期(在宅)の拠点である、在宅総合ケアセンター元浅草、在宅総合ケアセンター成城、船橋市リハビリセンターのそれぞれの地域において、医療・介護の分野で活躍する様々な人々と顔の見える関係を構築し、国が掲げる「住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けること」という目標の達成を目指すことになります。同じ法人、同じ建物の中で働く人による連携に比べて、異なる法人、異なる場所で働く人同士の連携はよりハードルが高くなります。それをどうやって乗り越えていくのかが大きなテーマとなるでしょう。

ご存知のように、日本は今後さらに高齢者の数、要介護者の数、単身世帯の数が増え続けます。それを支える生産年齢人口は減少の一途です。このような状況を打開する一つの方策として、21世紀の初めに国から「地域包括ケア」というキーワードが出され、市区町村単位で様々な取組が開始されているところです。



地域包括ケア推進部の今年度の事業の柱として、①地域包括ケアに関する、情報の集約と情報発信、②地域の医療・介護にかかわる人々と顔の見える関係を構築、③輝生会在宅部門従事者の教育体制の整備、④台東区における地域リハ支援活動の展開、⑤セコム提携病院やその他の外部組織へのリソースの提供の5つを掲げ活動行っています。

すでに、今年度最初の当法人研究発表会冒頭で、地域包括ケアについてのまとめを報告しました。残る5回の研究発表会でも毎回、地域包括ケアについて話をしていく予定です。

また、地域リハ支援事業の一環としての台東区での年間計画の策定支援、訪問リハビリのOJT、訪問関係職種のマニュアル、技能や知識のチェックリスト作りを開始しました。その他、在宅総合ケアセンター元浅草が区中央部において、慈恵医大の協力機関となれるよう、その準備を支援しています。8月以降、セコム提携病院で働く医師に対しても在宅医療の重要性に気が付いていただけるよう講演会を行っていく予定です。

文責／輝生会本部 地域包括ケア推進部 部長 堀見 洋継

区西南部地域 リハビリテーション支援センターの さらなる活動の充実へ向けて

初台リハビリテーション病院では、昨年度(平成26年度)から区西南部地域リハビリテーション支援センターの委託を受け、活動を開始しています。

昨年度は、講演会1回、ケアマネジャー・介護職向け研修会8回、多職種による事例検討会3回、研究大会1回を実施しました。地域で働く、医療・福祉・介護・保健に携わる方々、総勢880名にご参加いただくことが出来ました。これら事業の企画・運営を通し、地域で働く皆さまから現



船橋市における 地域リハ推進に向けた取り組み

船橋市では、市内の保健・医療・介護・福祉分野で活躍する有志を世話人として、平成21年10月に「第1回船橋市地域リハビリテーション研究大会」が開催されました。さらに、平成22年3月には「船橋市地域リハ研究会」が設立され、勉強会や研究大会といった活動を継続してまいりました。平成26年4月、船橋市リハビリセンターがリニューアルされたことを機に、当センターが地域リハビリテーションの支援拠



場で困っている生の声を伺うことができ、私たち病院で働くスタッフにとっては地域生活の中でのリハビリテーションの現状について知ることができる貴重な機会となりました。区西南部地域で働く方々のリハビリテーション知識、技術の向上の一助となるよう、昨年頂いたご意見を元に、今年度はさらに事業内容をブラッシュアップさせ、活動の充実を図っていく予定です。

また、今年度からは「介護予防における地域リハビリテーション推進事業」も受託する事となり、リハビリを通じて区西南部地域に住民の皆さまの介護予防・健康増進が図れるような取り組みへと広げ、地域全体が生き生きと活性化するお手伝いをしていきます。

文責／初台リハビリテーション病院 教育研修局 チーフ 東 妙香



点と位置づけられ、研究会と密接な連携を図り、事業を運営していくこととなりました。

現在の主な活動は、「研究大会」(年2回)、「地区勉強会」(年3回)、「市民向け講演会」(年2回)、「摂食栄養サポート勉強会」(年2回)、「介護職員向け勉強会」(年10回)等となっています。その他、「リハビリ総合相談」の実施、「リーフレット・刊行物」の発行、ホームページの開設等を行っています。今後とも地域の関係機関・住民の方と密接な連携の下、船橋市における地域リハビリテーションの推進に寄与して参ります。

文責／船橋市リハビリセンター 副センター長 江尻 和貴

